



# むかいこがね

## ともに未来を

令和3年6月30日  
7月号 No.4  
流山市立向小金小学校

<https://schit.net/nagareyama/mukaisyou/>

## 「もずこけし」ってどんなこけし？

校長 角 龍幸

各教室に下のようななぞのこけしが掲示してあります。これは为什么呢。



「け…計算、し…式」と書いてあることからわかるように、この言葉は（主に）算数の学習で使います。「どのようにしたら問題が解決できるだろう」と考えるときに、「図で書いてみたらどうだろう」とか「実際にブロックを動かしたら答えが出るかな」など、わからないときにヒントとして使って欲しい思考のためのツールです。

昨年度からテーマを「主体的に学び、考えを広げられる児童の育成」とし、算数科の職員研修に取り組んでいます。先ほどのように自分で解き方を考えるとき以外にも、友達に自分の考えをわかりやすく説明するときも、式を示しながら自分の考えを話したり、図で示すことで、よりわかりやすく伝えられるようになって欲しいと願っています。

教師が授業をするときも「もずこけし」を常に意識しています。例えば右の写真には、『新しい計算を考えよう』と書かれています。これは、かけ算の学習の最初のページなのですが、教科書に『かけ算』と書かれていません。まず観覧車の絵（図）を見て、観覧車に乗っている人数を、“1台に4人ずつ5台分で15人います”と言葉で表します。様々な絵を言葉で表す中で、1つ分の数といくつ分かがわかれば全部の数をもとめることができることがわかります。そこで初めてこのことを式では、 $4 \times 5 = 15$ と書くことを知ります。絵（図）から状況をお話し（言葉）にし、かけ算の式と結びつけるのです。

大人になるとたし算、ひき算、かけ算、わり算を当たり前に使っていますが、小学校ではこれらの計算（演算）に初めて出会うことになります。演算との最初の出会いでは、「もずこけし」がフル稼働しています。



さて、明日から7月となります。夏休み前に1学期まとめにしっかり取り組ませ、良いしめくりができるようにしていきたいです。今学期も本校の教育活動の推進にあたり、保護者の方々や地域の方々に多くのご理解とご協力をいただきました。心からお礼を申し上げます。

6月30日に校内授業研修会として、6年1組の分数のわり算の授業を全職員で参観しました。分数のわり算の答えは簡単に出せても、なぜそのように計算するのは、大人でも説明は難しいのではないのでしょうか。6年生は、それまでに学習してきた内容を元に、初めて出会う計算の方法を一生懸命考えていました。さすが6年生と感じたのは、何を根拠に自分がその解き方をしたのかをしっかりと説明したり、違う解き方でできないかさらに考えたりすることが自然にできていたことです。また、周りの人と相談するときに友達の説明をうなずきながら聞くなど、学習への取り組み方が前向きだったことも印象的でした。

